



中野区立緑野中学校 学校便り

# 探求・創造・共生

令和 3年11月18日(木) 発行 第7号

## 特別支援教育の充実

校長 齊藤 久

緑野中学校の教育目標は「探求、創造、共生」です。共生が目指す「共に学び・共に生きる」の理念は、誰もが幸福に生きていける社会の実現に向けて必要です。夏に開催された東京パラリンピックでは障害がありながらも最後まで諦めずに勝利を目指すパラリンピアン  
の姿に何度となく感動させられました。

文部科学省は学級には支援が必要な**軽度発達障害**（自閉症、アスペルガー症候群、学習障害、注意欠陥多動性障害等）の**児童生徒が在籍数の6%程度は存在する**と発表し、それまでの特殊教育から平成19年に特別支援教育に名称をあらため、支援が必要な児童生徒へ適切な指導を推進していくことになりました。

私が10年ほど前に勤務していた小学校に特別な支援が必要な通級指導学級が併設されていました。児童が担任の先生へ「とうのやま学級に今から行ってきます。」と伝えると他の児童が「いってらっしゃい。」と送って来ていました。教室に戻ってきた時は「ただいま。」「お帰り。」の挨拶が児童の中で自然に交わされていました。**特別支援教育を充実させるためには周囲の理解と温かな雰囲気大切です。**



昨年から新型コロナウイルス感染症対策の生活が続いていますが、陽性になった生徒の保護者から報告を受けた時に「子どもがいじめられないか心配です。」と相談を受けたことがありました。コロナ差別の報道がされていた時期でもあり保護者のご心配はよく理解できました。その生徒が2週間の自宅療養を終えて学校に戻ってきた時に校長室の廊下で見かけたので「何か心配なことがあったら先生方に遠慮なく相談するのですよ。」と声を掛けました。生徒は校長がいじめなどの差別偏見を心配していることが分かったようでした。「校長先生、大丈夫です。皆は以前と変わらずに接してくれます。」とつぶらな瞳で私を見て話をしてくれました。緑野中学校にも「お帰り。」の**温かい校風**がありました。このような心情は学校だけで育つものではありません。家庭教育があったからこそと保護者の皆様に感謝しています。

**視力が弱い人は眼鏡をかける。脚力が弱い人は階段ではなくエレベーターを使用する**のと同じように、学校では学習が進めにくい点があれば支援する。生活しにくい点があれば改善する。名前は特別支援教育ですが、当たり前前の教育だと私は考えています。

中野区は巡回指導の教員が訪問し本校の緑野サポートルーム(MSR)で指導をする体制ができています。生徒のことで心配なことがありましたら遠慮なく相談してください。

温かい校風を大切に特別支援教育を充実させてまいります。

## 連合文化発表会

11月3日(祝) 文化の日に連合文化発表会が中野ゼロホールと帝京平成大学で開催されました。本校は音楽の部(吹奏楽部)と理科の部に参加しました。

### 理科の部(帝京平成大学 中野キャンパス) 中野区教育長賞 2年



#### 凝固点降下について

液体のコーラを器に注ぐとフローゼン状になる動画を見付け、疑問に思いました。そこから、少し調べたところ、「凝固点降下」という言葉が出てきました。液体にはギリギリ凍らない状態があり、刺激を加えると凍るのではないかと予想し、「凝固点降下」の実験を行えば、フローゼンコーラの謎についてもわかると思ったので、この研究に至りました。

実験では、コーラのほかにも身近な液体を使って調べました。それぞれを冷やしてみると、すべての液体で、凝固点以下まで一気に冷え、その後凝固点まで温度が上昇することがわかりました。これは過冷却という現象で、この過冷却状態のときに刺激を加えるとフローゼン状になることがわかりました。また、液体の濃度により、過冷却状態にも違いが見られました。

今回の取り組みから、繰り返し実験を行うと規則性が出てくるので、今後も、実験の結果からたくさんの発見をし、疑問について細かく考えていきたいと思いました。



### 音楽の部(中野ゼロ 大ホール) 吹奏楽部

演奏曲 「マードックからの最後の手紙」  
「オーメンズ・オブ・ラブ」

樽屋 雅徳 作曲

和泉 宏隆 作曲 真島 俊夫 編曲

吹奏楽部 顧問 中角 友紀

新型コロナウイルス感染症の流行で、練習や演奏の機会が減っていた中、久しぶりのホールで、そして観客の方もいる中での演奏でした。

今回は3学年全員そろっての演奏が叶い、緑野中サウンドをホールいっぱいに響かせることができました。本番前は、「緊張する…」と話していましたが、いざ本番が始まると、「あつという間だった!」、「楽しかった!」と生徒たちの表情もいきいきしていました。

外部で演奏したり、他校の演奏を聴いたりする中で、改めて音楽を創り上げること、聴くことの楽しさを実感できた1日でした。

活動を応援、支えてくださった皆様に感謝申し上げます。



## 人権作文

中野区人権擁護委員賞を受賞しました

1年 「私は私」

2年 「高齢化社会と人権」

## 中野区防災訓練（バケツリレーの部）に参加



11月7日（日）に南台いちょう公園にて行われた初期消火器操法大会のバケツリレーの部に緑野中学校の代表として生徒会執行部が出場しました。事前に野方消防署の方からご指導をいただき、本番は立派な姿を見せてくれました。普段はなかなかできない体験ができ、新鮮な様子でした。

## 頑張っています！部活動についてお知らせします（陸上競技部）



総合体育大会 6月26・27日



通信陸上競技大会 7月17・18日

## 道徳授業地区公開講座

11月13日（土）に道徳授業地区公開講座を実施しました。内容は全学年「生命尊重」をとりあげ、リモートで道徳授業を公開しました。

今回、2年生は「がん教育」をテーマに「国語」「保健体育」「特別の教科 道徳」「総合的な学習の時間」で教科横断的に学習を進めましたので紹介します。

1校時は、クラスの代表のグループが学習の成果を発表しました。

2校時は、埼玉医科大学総合医療センター 緩和医療科、呼吸器外科

医師 儀賀 理暁（ぎか まさとし）先生に講演をいただきました。



講演では、「いのちが始まるとき」～「がん治療」～「緩和ケア」そして「今とこれからを生きる君たちへ」という流れで2年生へ「命」についてのメッセージをいただきました。

講演の後にはクラスが半分に分かれて、がんについてまとめの討議を行いました。その内容について代表の生徒が発表を行い講師の儀賀先生から指導をいただきました。

○生徒の意見や感想

- ・ 命はいつか終わるということを感じさせられた。
- ・ パートナーが大切だと気付いた。
- ・ 癌と告げられたときの患者の気持ちを考えると自分だったら恐怖を感じると思った。
- ・ 家族や仲間と共に支え合う。
- ・ 手を差し伸べる。
- ・ 生きている上では幸せは変わらない。
- ・ いのちは奇跡。いのちは大切。
- ・ 諦めちゃダメ！

生徒達は多くのことに気づき、命の尊さを学ぶ貴重な機会となりました。



## 道徳授業地区公開講座 意見交流会

参観した保護者から多くの意見が出され活発な意見交流会になりました。



○道徳の授業とがん教育をテーマとした授業であったが、がんという病気は特別なものではなく、近親者が病気にかかったこともあって多くのことを考える機会となった。

○緩和ケアに関わる中で、先生がスタッフに伝えていることは何ですか。  
回答…先回りせず、急ぎすぎないことです。

○がんは早期に発見すれば治る可能性が高いことと予防が大切であることを改めて理解することができた。